

国際大会までの道のり

国際生物学オリンピック (International Biology Olympiad:IBO) について



国際生物学オリンピック (IBO) は生物学に関心を持つ高校生等を対象とした国際的なコンテストです。

- 生物学の問題や実験に挑戦し、生物学への興味と創造性やねばりづよさを競う。
- 参加する生徒の能力を伸ばし、科学者への道に導く。
- 生物学を学ぶ生徒どうしの国際的交流の機会をあたえる。
- 生物学教育に関するアイデアと教材の国際的な交換を推進する。

これらを目的に1990年に旧チェコ・スロバキアのオルモウツで第1回大会が開催されて以来、毎年開催国を持ち回りにより開催されています。

コンテストは、生物学に関する理論課題試験と実技課題試験によって競われます。また、それだけでなく、参加者同士の国際的交流をはかることも重要な要素とされています。毎年7月に開催される大会には、各々の国内選考を経て選ばれた4名の代表生徒と引率役員が各国・地域から参加します。

日本生物学オリンピック

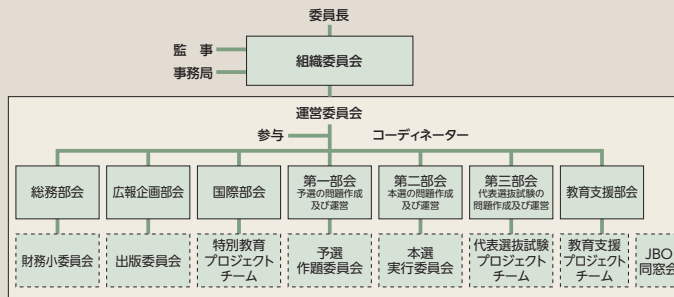
浅島 誠 (日本生物学オリンピック組織委員会委員長)



国際生物学オリンピックへの参加、および国内大会である日本生物学オリンピックの実施は、生物学に対して優れた資質を有する生徒を励まし、各自の生物学に対する興味関心を最大限に引き出すチャレンジの機会を提供するとともに、その能力をさらに伸ばす次のステップを与えることができます。また、生徒のみならずその周辺にも広く生物学への意識を喚起し、才能ある若者の発掘・育成の必要性や意義に対する国民の理解を促進します。これらにより、生物学の知識を普及しつつ関心の向上と理解の増進を図り、国際的に活躍する研究者・技術者を目指す若者の増加、それに加えて我が国の生物学教育の発展向上を目指す活動への社会的コンセンサスの形成に寄与することが、本事業の目的です。

本事業は、高校生、中学生や高等専門学校生等及び保護者のもとより、教員、各都道府県市教育委員会、生物科学に関わる大学や研究開発機関の研究者まで広く国民に周知を図る必要があるため、文部科学省の後援を受けています。

国際生物学オリンピック日本委員会組織図



日本生物学オリンピック 2015

Japan Biology Olympiad 2015



モルフォ蝶の1種

未来の生物学を創るのは君だ

参加申込締切日

2015年6月1日(月)

(当日消印有効)

予選開催日時

2015年7月19日(日)

詳しくはJBOウェブページ上の募集要項ほかをご覧ください。

<http://www.jbo-info.jp>



国際生物学オリンピック日本委員会JBO



参加申し込み方法

募集要項、またはJBOのウェブページにある日本生物学オリンピック2015参加申込書に必要事項を記入して郵送する方法と、申込専用のウェブページの指示にしたがって直接入力して申し込む方法とがあります。

日本生物学オリンピック 2015予選

日程 2015年7月19日(日) 13:30~15:00(90分)
会場 各都道府県内の大学及び高等学校(会場詳細は、ウェブページ<http://www.jbo-info.jp>参照。)

参加資格 20歳未満で大学に入学する前の青少年の皆さんです。高等学校、高等専門学校(3年生以下)、中等教育学校、中学校の在籍者。高等学校卒業程度認定試験受験資格のある方、予備校生など。

日本生物学オリンピック2015本選(広島大会)

日程 2015年8月20日(木)~8月23日(日)(3泊4日)
会場 広島大学・東広島キャンパス (<http://www.hiroshima-u.ac.jp>)

参加資格 予選で選ばれた約80名。
国際大会の実験問題を模した試験
同時に最先端研究体験や仲間との交流を楽しむ

代表選抜試験

日程 2016年3月21日(振休・月) 9:00~16:00
会場 科学技術館(東京都千代田区北の丸公園2-1) (<http://www.jsf.or.jp>)

参加資格 予選と本選の成績を総合して選ばれた高校2年生以下約15名。

日本代表4名と次点2名を選考します。
国際大会と同等レベルの問題が出題されます。

特別教育として

- ①講義・実験実習を通して、生物学のセンスやスキルを磨き、国際大会に相応しい実力をつける。
 - ②積極的な質問やディスカッションを通して、理論的考察力を高め、自学自習を円滑に進める。
 - ③合宿形式のトレーニングを通して互いの交友を深め、連帯感を育むと同時に、国際大会での交流や課題に取り組む力を養う。
- 第27回国際生物学オリンピックは2016年7月17日から24日(予定)にベトナム・ハノイで開催されます。

今後の国際大会開催国

- 第26回 2015年 デンマーク
- 第27回 2016年 ベトナム
- 第28回 2017年 英国
- 第29回 2018年 イラン
- 第30回 2019年 ハンガリー
- 第31回 2020年 日本(予定)



主催 国際生物学オリンピック日本委員会 JBO URL: <http://www.jbo-info.jp>
〒1102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 科学技術館内 E-mail: jbo@jsf.or.jp

共催 広島大学・筑波大学・高等学校文化連盟全国自然科学専門部 / 科学技術振興機構 日本科学技術振興財団

助成 一般社団法人東京倶楽部

協賛 東レ / JT / 味の素 / キッコーマン / メルク / アジレント・テクノロジー
日本製薬団体連合会 / Z会 / 日本動物学会 / 東進ハイスクール・東進衛星予備校

協力 はるやま商事 / 丸善出版 / 日本発明振興協会

後援 文部科学省 / 生物科学学会連合

キャンベルが開いた生物学の扉

中村 絢斗(2013スイス大会 日本代表 埼玉県立大宮高校 現在:東京大学教養学部理科二類)

高1の夏に学校の図書室で、生物学オリンピック公式教科書であるキャンベル生物学を偶然見つけたことは今でもはっきりと覚えています。読んでいくうちに、それまで断片的に見知りしていた生き物の情報が大きな物語に調和して織り込まれていく気がしました。蓄積された知識と新たな発見に潜む矛盾を克服してきた生物学の営みが凝縮されていたんだなと思います。

ちなみにこのキャンベルという教科書は各国で使われていて、重くて分厚いことも手伝ってかIBO選手の間でもシンボルのような役割を持っています。これを読んでいるだけで、「あ、キャンベルだ!」と話が始まることもありました。また僕のキャンベルを見た選手が「カッコいい文字だね」と話しかけてきて、確かに日本語は複雑だよと再発見もありました。

ところで僕は大学に入ってから、iGEM(The International Genetically Engineered Machine competition)という国際大会に向けた研究等の活動をしています。キャンベルとの出会いと生物学オリンピックを通して、僕はようやく生物学とそれを通じた交流にはまってしまうようです。



2020年に生物学オリンピック国際大会を日本で開催し 理科教育を活性化しよう

松田 良一(国際生物学オリンピック日本委員会コーディネーター、東京大学教授)

オリンピック・パラリンピックが2020年に東京で開催されます。これに向けて、国内では初等中等教育における体育やスポーツクラブへのさまざまな強化策が打ち出されています。一方で、生物学などの自然科学に秀でた資質をもつ生徒への対応は十分とは言えません。生物学オリンピックは、多様な生物やその身体のしくみやふるまいについての基本的な知識を確かめ、なによりも科学の方法を理解し駆使する能力を競いそだてることを目標としています。そのような生徒が生物学に挑戦し仲間と国境を越えて交流する舞台です。私たちは、この国際生物学オリンピックを2009年に引き続き、2020年7月に日本で開催する予定です。私達は国際生物学オリンピックの日本開催を契機に次世代層の生物学教育の一層の充実化と理科教育の強化を目指していきます。2020年を「スポーツと科学教育の振興を通じて国際親善と人類文明の持続した発展に貢献する日本の姿勢」を高らかに示すメモリアルイヤーしたいと思います。多方面からの支援をお願いします。



第20回国際生物学オリンピック(IBO2009)つくば大会

2009年7月12日からつくば市において56ヶ国・地域から221名の生徒の参加を得て開催された第20回国際生物学オリンピックにおいて千葉県立船橋高等学校3年の大月亮太さんが日本初の金メダルを受賞しました。そして日本の代表4名全員がメダル(金1、銀3)を獲得しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 大月 亮太 (千葉県立船橋高等学校(千葉県)3年)
- 銀メダル → 中山 敦仁 (灘高等学校(兵庫県)2年)
- 銀メダル → 谷中 綾子 (桜蔭高等学校(東京都)2年)
- 銀メダル → 山川 真以 (桜蔭高等学校(東京都)3年)



第21回国際生物学オリンピック(IBO2010)韓国大会

2010年7月11日~18日に昌原において開催され、58か国・地域から233名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 栗原 沙織 (北海道札幌西高等学校(北海道)2年)
- 銀メダル → 坂本 莉沙 (渋谷教育学園渋谷高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 三上 智之 (ラ・サール高等学校(鹿児島県)2年)
- 銀メダル → 水口 智仁 (開成高等学校(東京都)3年)



第22回国際生物学オリンピック(IBO2011)台湾大会

2011年7月10日~17日に台北において開催され、58か国・地域から227名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 大塚 祐太 (千葉県立船橋高等学校(千葉県)3年)
- 金メダル → 久米 秀明 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)
- 金メダル → 松田 洋樹 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 三上 智之 (ラ・サール高等学校(鹿児島県)3年)



第23回国際生物学オリンピック(IBO2012)シンガポール大会

2012年7月8日~15日に開催され、59か国・地域から239名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 銀メダル → 荒木 大河 (宮崎県立宮崎西高等学校(宮崎県)3年)
- 銀メダル → 野田 夏実 (桜蔭高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 前田 智大 (灘高等学校(兵庫県)2年)
- 銀メダル → 依田 和樹 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)



第24回国際生物学オリンピック(IBO2013)スイス大会

2013年7月14日~21日にベルンにおいて開催され、62か国・地域から240名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 新宅 和憲 (広島学院高等学校(広島県)3年)
- 銀メダル → 横山 純士 (東京都立西高等学校(東京都)2年)
- 銀メダル → 中村 絢斗 (埼玉県立大宮高等学校(埼玉県)3年)
- 銀メダル → 真田 兼行 (灘高等学校(兵庫県)2年)



第25回国際生物学オリンピック(IBO2014)インドネシア大会

2014年7月6日~13日にバリ島において開催され、61か国・地域から239名の生徒が参加しました。

●オリンピック日本代表の成績

- 金メダル → 那須田 桂 (静岡県立浜北高等学校(静岡県)3年)
- 銀メダル → 石田 秀 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年)
- 銀メダル → 藏田 展洋 (広島学院高等学校(広島県)3年)
- 銀メダル → 今野 直輝 (筑波大学附属駒場高等学校(東京都)2年)



インドネシアに生息するコモドオオトカゲ(右)

第26回国際生物学オリンピック(IBO2015)デンマーク大会

2015年7月12日~19日にオーフス市においてデンマーク大会が開催されます。



INTERNATIONAL
BIOLOGY OLYMPIAD
2015 AARHUS DENMARK

国内大会名の予選参加申込者数

年度	国内大会名	参加申込者数
2005	アルゼンチン大会日本代表選考会	547名
2006	カナダ大会日本代表選考会	963名
2007	インド大会日本代表選考会	1,488名
2008	生物チャレンジ2008	2,482名
2009	生物チャレンジ2009	2,693名
2010	生物チャレンジ2010	2,534名
2011	日本生物学オリンピック2011	2,922名
2012	日本生物学オリンピック2012	3,639名
2013	日本生物学オリンピック2013	3,706名
2014	日本生物学オリンピック2014	3,756名